令和7年度取組結果及び令和8年度取組予定

雄物川水系
・秋田市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
・横手市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
・湯沢市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
・大仙市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
・仙北市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
・美郷町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
・羽後町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
・東成瀬村・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
・東北運輸局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
・秋田地方気象台・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
・東日本旅客鉄道(株)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
・東北電力(株)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
・秋田県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
・東北地方整備局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

馬場目川水系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

資料－6

Ｒ７年度の取組結果（秋田市）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年へ～

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○簡易水位計等の基盤整備

・普通河川古川流域において、排水機場整備等を実施
（令和７年度完成予定）

・国土交通省が行うワンコイン浸水センサ実証実験へ参加し、Ｒ５年７月豪雨で被害を受けた地区など１０が所にセンサを追加設置（全３０か所）
（道路の通行止めや仮設ポンプの設置判断等に活用）

・内水氾濫対策の取り組み
⇨秋田駅西（中通・南通・楢山）地区における雨水幹線の整備に向けた設計を実施
⇨河川高水時に強制的に雨水を排除する排水ポンプ施設の増設および新設に着手
⇨河川から雨水管への逆流を防止するフラップゲートの整備を実施
⇨広面地区おける雨水の流出を抑制する雨水貯留浸透施設の計画策定に着手
⇨川尻地区における雨水管の整備に着手



古川排水機場　整備状況



ワンコイン浸水センサ設置状況

■ソフト対策【動かす】　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施
⇨町内会等からの依頼による防災訓練

・水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施
⇨市内小中学校からの依頼による防災講話

・要配慮者利用施設における避難計画の作成及び訓練の促進
⇨要配慮利用施設への避難確保計画の作成支援



市内中学校における防災講話

Ｒ７年度の取組結果（秋田市）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の避難行動に着目した各市町のタイムラインの運用及びマイタイムラインの作成
　⇨町内会、自主防災組織等に対しマイタイムライン作成の周知・啓発
・想定最大規模降雨による浸水想定区域図、氾濫シュミレーション、家屋倒壊等氾濫想定区域の公表
　⇨内水浸水想定区域図（仁井田、御野場、大住、牛島、中通、南通、楢山、千秋、手形、東通、広面、横森、桜、旭川地区の一部）を秋田市ホームページで公表
・適切な土地利用の促進
　⇨災害危険区域の指定（雄和地区の一部：Ｒ４．９．１指定）
・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充（防災メール、防災ラジオ、SNS等）
　⇨防災ＦＭラジオを自主防災組織等へ貸与
　⇨秋田市の防災情報をFM秋田「秋田市防災Navi」により放送
　⇨防災ネットあきたによる災害情報の提供（電話、FAXでも提供）
　⇨ホームページ、ツイッターで災害情報の提供
・想定最大規模の洪水での避難計画を考慮したハザードマップの作成・周知及びまるごとまちごとハザードマップの推進
　⇨想定最大規模の浸水想定による水害ハザードマップおよび水害対策ガイドブックを用いた地域での防災講話の実施



内水浸水想定区域図

Ｒ７年度の取組結果（秋田市）

■ソフト対策【ねばる】②氾濫被害の防止や軽減、避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・関係機関が連携した水防訓練・水防団同士の連携体制の再確認の実施

⇨水防訓練（Ｒ７．５．２５：雄物川総合水防演習に参加）

⇨災害対策用排水ポンプ車による排水訓練

（Ｒ７．５．２９：国土交通省と合同操作訓練、Ｒ７．１０．２０、Ｒ７．１０．３１）

・重要水防箇所の合同巡視

⇨雄物川合同巡視（Ｒ７．５．２０）

・水防資機材の保有状況の確認

⇨適切に在庫管理





災害対策用排水ポンプ車による排水訓練（R7.5.29：国土交通省と合同操作訓練）

Ｒ８年度の取組予定（秋田市）

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○簡易水位計等の基盤整備

- 古川流域の排水機場等の整備（継続）
- 古川排水機場の運用開始
- 内水氾濫対策の取り組み

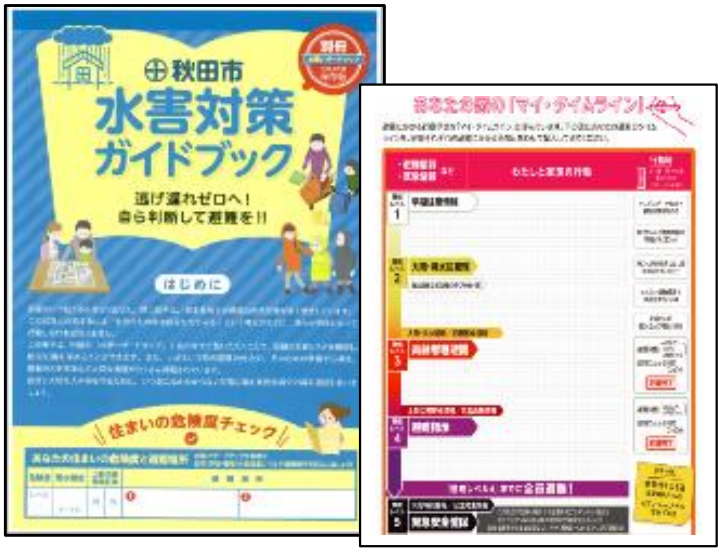
⇨秋田駅西（中通・南通・楢山）地区の雨水幹線の整備に着手

⇨河川高水時に強制的に雨水を排除する排水ポンプ施設の増設・新設を継続実施

⇨河川から雨水管への逆流を防止するフラップゲートの整備を継続実施

⇨広面地区おける雨水の流出を抑制する雨水貯留浸透施設整備に向けた設計を実施

⇨川尻および広面地区における雨水管の整備を実施



マイタイムライン作成の啓発

■ソフト対策【動かす】　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

- タイムラインを活用したロールプレイング等のリアリティのある防災訓練の実施・タイムラインの検証及び改訂・他機関連携型タイムラインの拡充

  ⇨ 各種防災訓練の実施
- 水害リスクの高い区間における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施

  ⇨ 町内会・自主防災組織等の避難訓練の実施、自主防災リーダー研修会の実施
- 水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施

  ⇨ 学校関係者を対象にした防災教育の実施
- 要配慮者利用施設における避難計画の作成及び訓練の促進

  ⇨要配慮利用施設への避難確保計画の作成支援



自主防災リーダー研修会

資料－6

Ｒ８年度の取組予定（秋田市）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の避難行動に着目した各市町のタイムラインの運用及びマイタイムラインの作成
　⇨ マイタイムラインの自主防災組織等への周知・啓発
・想定最大規模降雨による浸水想定区域図、氾濫シュミレーション、家屋倒壊等氾濫想定区域の公表
　⇨内水浸水想定区域図の追加公表
・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充（防災メール、防災ラジオ、SNS等）
　⇨ ラジオ等による秋田市防災情報の継続的な発信
　⇨ 防災ネットあきたへの登録推進
・想定最大規模の洪水での避難計画を考慮したハザードマップの作成・周知
　（全図郭更新・配布）及びまるごとまちごとハザードマップの推進
　⇨想定最大規模の浸水想定による水害ハザードマップおよび水害対策ガイドブックを用いた地域での防災講話の実施



水防訓練
（雄物川総合水防演習）

■ソフト対策【ねばる】 ②氾濫被害の防止や軽減、避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・関係機関が連携した水防訓練・水防団同士の連携体制の再確認の実施
　⇨水防訓練
　⇨災害対策用排水ポンプ車による排水訓練
・重要水防箇所の合同巡視
　⇨関係機関等とのパトロールの実施
・水防資機材の保有状況の確認
　⇨必要資材の拡充



国・市の排水ポンプ車による排水作業（R6.9.21）

資料－6

Ｒ７年度の取組結果（横手市）

雄物川減災対策協議会 ～大洪水から70年・30年～

■ハード対策 （避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・BCP等ソフト対策を含む）

⇨ 横手市業務継続計画（ＢＣＰ）の改定と運用(継続)



土砂災害防災訓練　要配慮者利用施設からの避難誘導（8/30）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・各種訓練・講習会の実施

⇨６月１日（日）「土砂災害防災訓練」を実施（横手市上内町・羽黒町）

◇地域住民、地元消防団、要配慮者利用施設など111人が参加
秋田県、警察、消防が連携

⇨８月30日（日）「総合防災訓練」を実施（山内地区）

◇地域住民、地元消防団、火災予防組合、民生児童委員、
社会福祉協議会、災害協定締結事業所等から191人が参加し、
避難訓練、避難所開設訓練およびボランティアセンター設置訓練を実施

⇨小学校、高等学校での避難所開設訓練を実施（計4回実施）

◇ 児童・生徒が主体となり、学校体育館を避難所として開設する訓練を実施
高等学校の訓練では地元住民も避難者として参加

⇨防災講話の開催（40回、1,673人参加）※R7.12月末時点

◇地域住民のほか、地区交流センターや学校からの開催要望が増加傾向



高等学校での避難所開設訓練（5/24）

資料－6

R7年度の取組結果（横手市）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の多重化（防災メール、防災ラジオ、SNS等）

⇨防災行政無線、防災ラジオ、よこて安全・安心メール、緊急速報メール、市ホームページ
横手市公式SNS（LINE・X・ Facebook）よこてれび（デジタルサイネージ）の活用

⇨情報発信システムの運用

◇よこて安全・安心メールの送信と同時に市公式SNS（X、Facebook、LINE）や市ホームページでも自動的に情報発信し、多様な手段で迅速な情報発信が可能

⇨ 避難所受付システムの運用（シームレス避難所システム）

◇マイナンバーカードや運転免許証を利用し、迅速な避難所受付および情報共有
住宅地図上に要配慮者や避難状況を可視化させることで、適切な避難誘導の実施

⇨ **防災士を対象とした研修会、セミナーの開催（新規）**

◇今後の地域での活動強化に資するため、防災気象情報の研修やマイ・タイムラインの作成などを実施



総合防災訓練にてシームレス避難所システムによる避難所受付を実施（8/30）

■ソフト対策【ねばる】 ②氾濫被害の防止や軽減、避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・ 雄物川総合水防演習

⇨５月２５日（土）大仙市にて開催

◇事前に市独自での練習会を開催し、水防技術の習得、水防体制を強化

・重要水防箇所の合同巡視の実施

⇨ ５月３０日（金）湯沢河川国道事務所、平鹿地域振興局、
横手市、横手市消防本部、各消防支団参加



市独自の水防工法講習会（5/10）

資料－6

R8年度の取組予定（横手市）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ハード対策 （避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・BCP等ソフト対策を含む）

⇨ 横手市業務継続計画（ＢＣＰ）の改定と運用(継続)

○避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

⇨ ドローンを活用した被災状況の早期把握（新規）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・水害リスクの高い地域における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施

⇨ 土砂災害防災訓練を実施（継続）

◇市、県、警察、消防、消防団が連携し、大雨に伴う土砂災害を想定し、対象地域住民の避難行動を含む実践的な訓練を実施

⇨ 横手市総合防災訓練を実施（継続）

◇関係機関、災害時応援協定締結事業所との連携を予定

・水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施

⇨ 市内小中学校における防災講話の実施（継続）

高等学校等での生徒が主体となった避難所開設訓練の実施（継続）

・要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進

⇨チェックリストによる計画の見直しと避難訓練実施の促進(継続)

◇ 対象施設における計画の作成は100%（浸水想定区域、土砂災害警戒区域）

避難訓練の実施および必要に応じて計画の見直しをするよう働きかけを強化

資料－6

R8年度の取組予定（横手市）

■ソフト対策【動かす】

①逃げ遅れゼロに向けた
迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

- **住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充（防災メール、防災ラジオ、SNS等）**
  - ⇨ WEB版ハザードマップの周知（拡充）
    - ◇二次元コードを掲載したポスターを市内各所へ掲示し、携帯端末の位置情報からその地点周辺の災害危険個所を確認
    - ◇避難所開設情報や通行止め情報をリアルタイムで掲載可能
- **横手市洪水ハザードマップの更新（新規）**
    - ◇新たに公表された県管理河川の浸水想定区域を掲載したハザードマップを作成

■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

- **関係機関が連携した水防訓練・水防団同士の連絡体制の再確認の実施**
  - ⇨ 横手市消防団各支団単位での水防体制の確認
- **重要水防箇所の合同巡視**（継続）
  - ⇨ 国管理河川：湯沢河川国道事務所、横手市、横手市消防本部、各消防支団参加
  - ⇨ 県管理河川：平鹿地域振興局、横手市、横手市消防本部参加



キッチンカーによる炊き出し（イメージ）

■ソフト対策【戻す】

③日常生活及び社会経済活動の
一刻も早い回復を可能とする排水活動

○排水活動及び訓練、施設運用に関する取組

- **避難所の生活環境改善の取組**
  - ⇨ 簡易ベッド、パーティション、簡易トイレの備蓄、キッチンカー事業者との協定により適温食の提供体制を強化
  - ⇨ 気化熱式冷風機等の空調設備を整備

資料－6

Ｒ７年度の取組結果（湯沢市）

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・BCP等ソフト対策を含む）

⇨ 湯沢市業務継続計画（BCP）の運用

■ソフト対策【動かす】　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

- **自主防災組織の設置、指導及び育成に係る研修会の実施**
  - ⇨重点事業として継続して推進
  - ⇨県主催による「自主防災組織育成指導者研修会」を湯沢市で開催
- **地域の防災力向上に向けた施策の実施**
  - ⇨湯沢市防災士の会における研修会の開催等による地域防災リーダーの育成
  - ⇨湯沢市防災士の会による地域の防災訓練に参加しての助言等の実施
  - ⇨地区防災計画の策定支援
    - ※自主防災組織を設立した町内に対する地区防災計画の策定に向けた講座を開催
- **リアリティのある防災訓練の実施**
  - ⇨雄物川総合水防演習への参加（令和７年５月25日実施）
  - ⇨湯沢市雄勝郡総合防災訓練の実施（令和７年10月26日実施）
  - ※防災関係機関（市・消防・警察・自衛隊・東北電力・NTT等）及び要配慮者利用施設、住民、小・中学生参加による実践的な訓練を実施
- **水害リスクの高い区間における避難訓練の実施**
  - ⇨要配慮者施設において湯沢市水害避難訓練の実施（令和７年５月22日実施）
- **水害リスクを共有するための防災教育の実施**
  - ⇨水害リスクの高い地域への出前講座を実施
- **要配慮者利用施設の避難計画に基づく訓練の促進**
  - ⇨避難確保計画の実効性をより高めるための計画修正等の支援を継続して実施



自主防災組織育成指導者研修会
（秋田地方気象台主催による気象防災ワークショップ）



湯沢市水害避難訓練
（障がい者支援施設「愛光園」、複合施設「ぱあとなあ」、
多機能型事業所「かざぐるま」での避難訓練）

Ｒ７年度の取組結果（湯沢市）

■ソフト対策【動かす】

①逃げ遅れゼロに向けた
迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

- **住民の避難行動に着目したタイムラインの運用及びマイタイムラインの作成**
  ⇨出前講座や学校授業等の場を活用した、マイ・タイムライン作成講習の開催
- **住民の主体的避難を促す情報伝達手段の整備**
  ⇨防災行政無線の効果的な運用
  ⇨自主防災組織の代表宅に対する防災行政無線戸別受信機の設置（継続）
  ⇨秋田朝日放送のデータ放送を利用した「湯沢市テレビ回覧版」による各種情報発信（令和４年12月１日運用開始）
  ⇨緊急・防災メール、湯沢市公式ＬINEの登録促進、SNS等による情報発信の充実
- **想定最大規模の洪水における避難計画を考慮した防災マップの周知・活用**
  ⇨湯沢市地区版防災マップの周知徹底・防災講座等を通じた教育の実施



防災に関するの出前講座
（宇留院内地区）



小中学校
合同避難訓練
（湯沢東小学校・
湯沢北中学校）

■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

- **関係機関が連携した水防訓練・水防団相互の連絡体制の再確認の実施**
  ⇨令和７年５月25日(日）雄物川総合水防演習に参加
  ※シート張り工法・積み土のう工法を実施
  ⇨全水防団員（消防団員）へ装備品として「救命胴衣」を配布
  （R4～R7継続実施）ポータボートの購入（宝くじ助成）
- **重要水防箇所の合同巡視**
  ⇨令和７年５月29日（木）重要水防箇所合同巡視
  ⇨令和７年６月11日（水）雄勝地域県管理河川重要水防箇所合同巡視



「湯沢市テレビ回覧板」による各種情報発信

資料－6

Ｒ８年度の取組予定（湯沢市）

■ハード対策 （避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・BCP等ソフト対策を含む）

⇨湯沢市業務継続計画（BCP）の運用

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

- **自主防災組織の設置、指導及び育成に係る研修会の実施**
  ⇨重点事業として継続して推進
- **地域の防災力向上に向けた施策の実施**
  ⇨湯沢市防災士の会における研修会の実施（地域の防災訓練への参加等実践型の研修を実施予定）
  ⇨地区防災計画の策定推進
  ⇨防災士の会を活用した自主防災組織の訓練支援
- **リアリティのある防災訓練の実施**
  ⇨土砂災害訓練の実施（６月実施予定）
  ⇨湯沢市雄勝郡総合防災訓練への参加（10月頃実施予定）
- **水害リスクの高い区間における避難訓練の実施**
  ⇨湯沢市水害避難訓練の実施（５月頃実施予定）
- **水害リスクを共有するための防災教育の実施**
  ⇨出前講座等による防災講話を継続して実施
- **要配慮者利用施設の避難計画に基づく訓練の促進**
  ⇨他部局と連携し、避難確保計画・避難訓練の実効性をより高めるための支援を継続実施

令和7年度湯沢市土砂災害避難訓練



秋田県砂ボランティア協会による防災講話



要配慮者施設における
一時避難場所への避難訓練

湯沢市雄勝郡総合防災訓練での活動



Ｒ８年度の取組予定（湯沢市）

■ソフト対策【動かす】

①逃げ遅れゼロに向けた
迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

- **住民の避難行動に着目したタイムラインの運用及びマイ・タイムラインの作成**
  ⇨市民への周知徹底とタイムラインの見直し（継続実施）
  ⇨出前講座等の場を活用したマイ・タイムライン講習会による作成支援
- **住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充**
  ⇨防災行政無線とスマートフォンの連携や施設等に対する戸別受信機の配布等、更なる効果的な運用の調査・検討
- **想定最大規模の洪水における避難計画を考慮した防災マップの周知・活用**
  ⇨湯沢市地区版防災マップの更新・周知徹底・防災講座等を通じた教育の実施（継続実施）

マイ・タイムライン講座

～自分･家族の防災計画を作ろう！～



■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

- **流域内の関係機関が防災情報を共有できる体制の整備**
  ⇨継続して連携
- **市・消防・消防団による水防能力向上及び連絡体制の確認の実施**
  ⇨湯沢雄勝地区水防講習会の実施（５月頃実施予定）
- **重要水防箇所の点検**
  ⇨５月頃　重要水防箇所合同巡視
  ６月頃　雄勝地域県管理河川重要水防箇所合同巡視



重要水防箇所合同巡視

資料－６

Ｒ７年度の取組結果（大仙市）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・BCP等ソフト対策を含む）

⇨国の乗越管を占用し内水排水作業の初動対応を早めるとともに、
内水排水作業による通行止めを防止し、避難経路の確保を図る
実施箇所：神岡地域・後川樋門
協和地域・沼館川樋門、小平沢樋門
南外地域・西板戸樋門

⇨本市２台目となる排水ポンプ車（60トン／分）の運用（令和7年3月末納車）

⇨マスプロダクツ型排水ポンプ設備の実証試験（令和10年3月末まで）



大仙市排水ポンプ車１号機（左）と２号機（右）

■ソフト対策【動かす】　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・他機関連携型タイムライン の充実
⇨ 国交省と連携した「洪水対応演習」 の実施（令和7年5月15日）

・水害リスクの高い区間における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施
⇨自主防災組織育成指導者研修会の実施（令和7年12月10日）
⇨自主防災組織等の避難訓練の実施支援

・水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施
⇨ 防災講話や避難所開設訓練の実施支援
（大川西根小学校、大曲中学校、大曲工業高校）
⇨災害教訓の伝承を目的とした自然災害伝承碑の登録（令和8年1月時点 4基）

・要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進
⇨ 新規開設施設への避難確保計画作成と避難訓練の実施を促進 （136/136施設で計画策定済）


自主防災組織育成指導者研修会


大曲中学校地域合同防災訓練


西仙北・強首地震



西仙北・強首輪中堤


大曲・雄物川


協和・淀川
自然災害伝承碑

資料－６

Ｒ７年度の取組結果（大仙市）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ソフト対策【動かす】

①逃げ遅れゼロに向けた
迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の避難行動に着目した各市町のタイムラインの運用及びマイタイムラインの作成

⇨自主防災組織へ「地区防災マップ・マイタイムライン」の作成支援

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充（防災メール、防災ラジオ、SNS等）

⇨防災メールや防災ラジオ、SNS等を活用した情報伝達手段の多重化・一斉配信

⇨ＷＥＢ版ハザードマップを活用した情報提供（水位、通行止め等）



重ねるハザードマップなどを用いた避難情報発令対象地区の検討

・迅速な避難情報の発令に向けた防災体制強化

⇨気象防災アドバイザーの配置による適時適切な避難情報の発令

⇨避難情報発令対象地区の事前検討による迅速な発令体制の構築

⇨避難情報の判断・伝達マニュアルの更新





雄物川総合水防演習

■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・重要水防箇所の合同巡視

⇨ 国土交通省との重要水防箇所の合同巡視 （令和7年6月11日）

・水防資機材の保有状況の確認

⇨ 水防講習会の実施（土のう作成）（令和7年6月8日）





○排水活動及び訓練、施設運用に関する取組

・関係機関と連携したリアリティのある水防・排水訓練の実施

⇨国・県・市の３機関合同による排水ポンプ車配置・操作訓練（令和7年6月2日）　大仙市総合防災訓練（神岡）

⇨水防技術の向上や連携強化を図る「雄物川総合水防演習」の実施（令和7年5月25日）

⇨災害対応能力や防災意識の向上を図る「大仙市総合防災訓練」を神岡地域で実施（令和7年10月7日）

資料－６

Ｒ８年度の取組予定（大仙市）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・BCP等ソフト対策を含む）

⇨常設排水ポンプ場の適切な管理。

⇨大雨災害の頻発化・激甚化を受け、既存の常設排水ポンプ場の見直しを行い、排水ポンプの増設を検討

⇨福部内川河川改修事業に伴う住吉町排水区の内水対策の検討

⇨２台の排水ポンプ車（60トン／分）による機動力を活かした排水体制

⇨マスプロダクツ型排水ポンプ設備の実証試験（令和10年3月末まで）



大曲・裏堰樋管



仙北・沼田排水樋門

■ソフト対策【動かす】　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・他機関連携型タイムラインの充実

⇨ 国交省と連携した「洪水対応演習」 の実施（継続）

・水害リスクの高い区間における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施

⇨自主防災組織育成指導者研修会及び大仙市防災士研修会の実施（継続）

⇨自主防災組織等の避難訓練の実施支援（継続）

・水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施

⇨ 中学校等における防災講話や避難所開設訓練の実施支援（継続）

⇨ 自然災害伝承碑をWEB版ハザードマップに表示することで、過去の災害履歴を見える化し、防災教育の教材や地域住民への防災意識の啓発に活用

・要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進

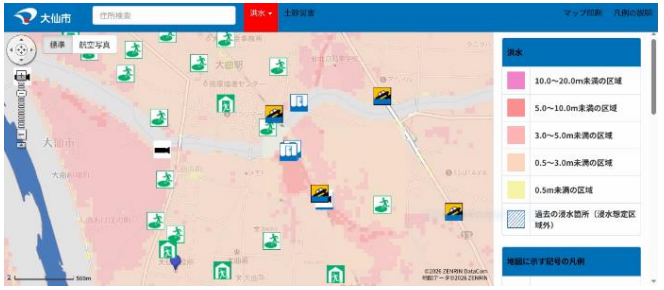
⇨ 新規開設施設への避難確保計画作成と避難訓練の実施を促進（継続）



自主防災組織育成指導者研修会



防災講話



WEB版ハザードマップ

資料－６

Ｒ８年度の取組予定（大仙市）

■ソフト対策【動かす】

①逃げ遅れゼロに向けた
迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の避難行動に着目した各市のタイムラインの運用及びマイタイムラインの作成

⇨ 自主防災組織へ「地区防災マップ・マイタイムライン」の作成支援

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の整備（防災メール、防災ラジオ、SNS等）

⇨防災メールや防災ラジオ、SNS等を活用した情報伝達手段の多重化・一斉配信（継続）

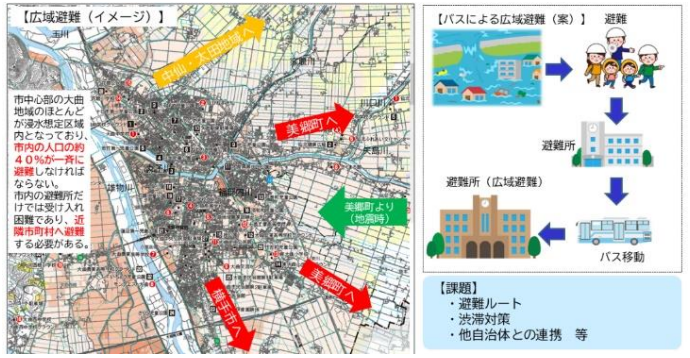
⇨Jアラート受信機の更新（令和8年6月末完成予定）

⇨水防法の改正を受け県が作成した浸水想定区域図に基づきハザードマップを更新（令和9年3月末配布）

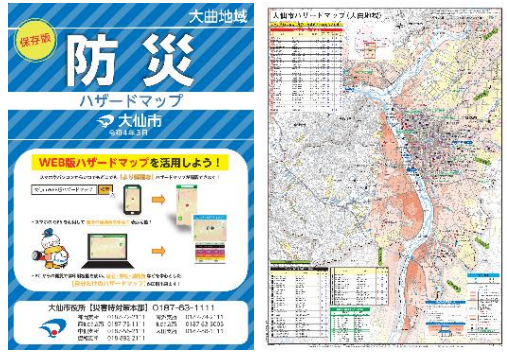
⇨ ＷＥＢ版ハザードマップを活用した情報提供（水位、通行止め等）（継続）

⇨SNSのハッシュタグ（#）を活用した被災状況に関する情報収集

⇨大規模氾濫を想定した広域避難の検討



広域避難（イメージ）



大仙市ハザードマップ

■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・重要水防箇所の合同巡視

⇨ 国・県との重要水防箇所の合同巡視（継続）

・水防資機材の保有状況の確認

⇨ 水防講習会の実施（水防工法）（継続）

○排水活動及び訓練、施設運用に関する取組

・関係機関と連携したリアリティのある水防・排水訓練の実施

⇨国・県・市の３機関合同による排水ポンプ車配置・操作訓練（継続）



重要水防箇所の合同巡視



排水ポンプ車配置・操作訓練

Ｒ７年度の取組結果（仙北市）

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○水防講習会の実施

⇨ **土嚢積みやロープワークの講習会を開催、水害から市民を守るための取り組みをを行った。自主防災組織にも参加を呼びかけ、消防団と一緒に講習を行った。**

■ソフト対策【動かす】　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・水害リスクの高い区間における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施

⇨ **自主防災組織と連携し訓練や啓発活動を実施した。**

・要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進

⇨ **避難訓練を毎年実施するよう周知する。**

・水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施

⇨ **角館高校定時制にて避難訓練を行った。**

・防災研修会の実施

⇨ **災害の教訓を風化させないよう防災知識の普及・啓発を図ることを目的とし、防災研修会を実施した。**

水防講習会の様子



土嚢積み（上）とロープワーク（下）の様子



Ｒ７年度の取組結果（仙北市）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充（防災メール、防災ラジオ、SNS等）

⇨**戸別受信機やメール、 LINEによる防災情報配信を継続実施。**

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・水防資機材の保有状況の確認

⇨ **出水期前に保有状況を確認した。**

自主防災組織と連携した防災講習会（令和7年11月9日）



資料－6

Ｒ８年度の取組予定（仙北市）

■ハード対策 （避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

【参考：氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策】

⇨**水防団や自主防災組織を対象として水防講習会等を実施し、災害に備える。**

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・水害リスクの高い区間における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施

⇨ **自主防災組織と連携し訓練を実施する。**

・水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施

⇨ **市内の小中学校で訓練など、防災教育を実施する。（７～９月実施予定）**

・社会福祉協議会等との連携

⇨ **災害時における介護事業所や社会福祉協議会と市役所の情報共有方法を打ち合わせする。**

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・水防資機材の保有状況の確認

⇨**出水期前に資機材を確認する。**

Ｒ７年度の取組結果（美郷町）

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・BCP等ソフト対策を含む）

⇨美郷町業務継続計画（ＢＣＰ）を運用中

■ソフト対策【動かす】①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施

⇨町内小中学校の避難訓練に併せて防災教育を実施（小中学校４校で実施）

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充

⇨防災無線、防災メール、LINE、テレビ回覧板の運用

■ソフト対策【ねばる】②氾濫被害の防止や軽減、避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・関係機関が連携した水防訓練・水防団同士の連絡体制の再確認の実施

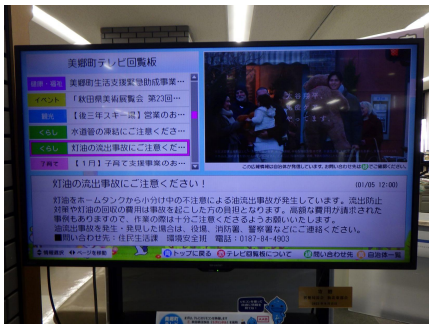
⇨流域内の関係機関と連携し、雄物川総合水防演習を実施（５月）

⇨大曲仙北広域市町村圏組合消防本部と連携し、水防訓練講習を実施（６月）

・水防資機材の保有状況の確認

⇨ 出水期前に水防倉庫及び各消防ポンプ庫の水防資機材の保有数を確認

テレビ回覧板による情報伝達



雄物川総合水防演習（５月）



水防訓練講習（６月）



資料－6

Ｒ８年度の取組予定（美郷町）

■ハード対策 （避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・BCP等ソフト対策を含む）

⇨美郷町業務継続計画（ＢＣＰ）を運用中

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施

⇨町内の小中学校で防災教育を実施

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充

⇨防災無線、防災メール、LINE、テレビ回覧板の運用

■ソフト対策【ねばる】 ②氾濫被害の防止や軽減、避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・関係機関が連携した水防訓練・水防団同士の連絡体制の再確認の実施

⇨大曲仙北広域市町村圏組合消防本部と連携し、水防訓練を実施

⇨関係機関と連携し、大仙仙北美郷支部防災訓練の実施

・水防資機材の保有状況の確認

⇨ 出水期前に水防倉庫及び各消防ポンプ庫の水防資機材の保有数を確認

Ｒ７年度の取組結果（羽後町）

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策

⇨ 羽後町業務継続計画 (BCP) の運用およびこれに基づく施設点検・保守

■ソフト対策　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充

⇨ **緊急告知ＦＭラジオ による避難情報の発令・約７割の世帯へ配布完了**

⇨ **冠水センサーによる監視（雄物川沿線内水氾濫箇所）**

⇨ **公式LINEを活用した避難情報発信訓練の実施**

緊急告知FMラジオ



■ソフト対策　②氾濫被害の防止や軽減、避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・関係機関が連携した水防訓練、水防体制の再確認の実施

⇨ ６月２日　湯沢市・東成瀬村との**合同水防講習会**を実施

・重要水防箇所の合同巡視

⇨ ５月２２日　**直轄河川の重要水防箇所合同点検**に参加

・流域内の関係機関が防災情報を共有できる体制の整備

⇨ 継続実施

総合水防演習



Ｒ８年度の取組予定（羽後町）

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策

⇨ 羽後町業務継続計画 (BCP) の運用およびこれに基づく施設点検・保守

■ソフト対策　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充

⇨ **緊急告知ＦＭラジオ を主とした緊急情報伝達手段の多重化を推進**

⇨ **登録制メール・防災LINE認知度向上による登録者の確保**

⇨ **危機管理水位計の運用開始**

⇨ **雄物川の氾濫を想定した避難訓練の実施**

洪水想定住民避難訓練



■ソフト対策　②氾濫被害の防止や軽減、避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・関係機関が連携した水防訓練、水防体制の再確認の実施

⇨ ５月　湯沢市雄勝郡合同水防訓練への参加

・重要水防箇所の合同巡視

⇨ ６月　**直轄河川の重要水防箇所合同点検**に参加

・流域内の関係機関が防災情報を共有できる体制の整備

⇨ 継続実施

雄物川重要水防箇所の合同点検



資料－6

Ｒ７年度の取組結果（東成瀬村）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ハード対策 （避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・BCP等ソフト対策を含む）

⇨ **東成瀬村業務継続計画の運用**

■ソフト対策【動かす】

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進

⇨ **該当施設に対し、避難計画の作成と訓練の実施を周知及びＢＣＰ作成の推進**

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充（防災メール、防災ラジオ、SNS等）

⇨ **防災行政無線の維持管理を継続するとともに、新規格に対応した移動系無線機の更新整備を必要に応じて実施**

■ソフト対策【ねばる】

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・関係機関が連携した水防訓練・水防団同士の連絡体制の再確認の実施

⇨ **雄物川総合水防訓練の参加（５月２５日）**

・重要水防箇所の合同巡視

⇨ **秋田県・東成瀬分署ほか河川等の合同巡視を実施（６月１０日）**

資料－6

Ｒ８年度の取組予定（東成瀬村）

■ハード対策 （避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・BCP等ソフト対策を含む）

⇨ **東成瀬村業務継続計画の運用**

■ソフト対策【動かす】

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・多機関連携型タイムラインの充実

⇨ **気象防災ワークショップへの参加**

・要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進

⇨ **該当施設に対し、避難計画の作成と訓練の実施を呼びかける**

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充（防災メール、防災ラジオ、SNS等）

⇨ **防災行政無線の維持管理の継続、新規格に対応した移動系無線機の整備（更新）**

■ソフト対策【ねばる】

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・関係機関が連携し、水防訓練や水防活動のPRを行い、水防意識の高揚に繋げる

⇨ **支部水防訓練講習会への参加**

・重要水防箇所の合同巡視

⇨ **秋田県・東成瀬分署ほか河川等の合同巡視を実施**

Ｒ７年度の取組結果（東北運輸局）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・多機関連携型タイムラインの充実

⇨ 東北運輸局ＨＰに、災害・防災情報として「防災ポータル」を、災害時等の鉄道・バス・旅客船等 公共交通機関の運行情報として「公共交通機関運行情報」のリンクを配置済み。



東北運輸局ホームページより

○その他の取組

・気象庁から適時発表される気象情報等について、東北管内の各鉄道事業者あてメール等により情報提供し注意喚起及び対応を促した。

・大雨等の際、鉄道事業者の鉄道施設について、速やかな状況把握に連携して努めた。

〔実施機関：東北運輸局鉄道部〕

Ｒ８年度の取組予定（東北運輸局）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・多機関連携型タイムライン の充実
　⇨ 東北運輸局ＨＰに、災害・防災情報として「防災ポータル」を、災害時等の鉄道・バス・旅客船等 公共交通機関の運行情報として「公共交通機関運行情報」のリンクを継続して配置する
　⇨ 気象庁から適時発表される気象情報等について、東北管内の各鉄道事業者あてメール等により情報提供し注意喚起及び対応を促す

○その他の取組

・ 大雨等の際、鉄道事業者の鉄道施設について、速やかな状況把握に連携した努める

・ 災害により鉄道施設が被災した際の支援等
　⇨　必要に応じて、被災した鉄道施設の現地確認
　⇨　必要に応じて、鉄道等の災害復旧に係る事業間連携に関する連絡調整会議を開催し、早期復旧に向けた課題を解消する



被災した鉄道施設の確認



鉄道等の災害復旧に係る連絡調整会議の模様

新しい防災気象情報

令和8年より
気象の警報などが
大きく変わります！



秋田地方気象台

資料－6

新しい防災気象情報（R8出水期から運用開始予定）

- 防災気象情報（大雨浸水、河川氾濫、土砂災害、高潮）を５段階の警戒レベルにあわせて発表。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル４相当の情報として危険警報を新設**。
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表**。（例：レベル４大雨危険警報 等）
- 情報と対応する防災行動との関係が明確に。（レベルの数字で、とるべき行動が分かる！）

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

市町村は、警戒レベル相当情報などを参考にして、
避難指示等の発令を判断する

	河川氾濫 １級河川などの大きな河川の氾濫	大 雨 低地の浸水や大きな河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや土石流	高 潮 海水面の上昇や高波による浸水	住民が取るべき行動
5相当	レベル５ 氾濫特別警報	レベル５ 大雨特別警報	レベル５ 土砂災害特別警報	レベル５ 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
	＜警戒レベル４までに、危険な場所から かならず避難！＞				
4相当	レベル４ 氾濫危険警報	レベル４ 大雨危険警報	レベル４ 土砂災害危険警報	レベル４ 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
3相当	レベル３ 氾濫警報	レベル３ 大雨警報	レベル３ 土砂災害警報	レベル３ 高潮警報	避難に時間を要する人は、早めに避難、避難の準備など
2	レベル２ 氾濫注意報	レベル２ 大雨注意報	レベル２ 土砂災害注意報	レベル２ 高潮注意報	避難行動を確認 （避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
1	早期注意情報 レベル３以上の情報発表の可能性がある場合に数日前から発表				災害への心構えを高める

資料－6

防災気象情報の課題と改善に向けた整理

- 令和6年6月に「防災気象情報に関する検討会」（気象庁）において防災気象情報全体の見直しを行い、令和8年の出水期から運用開始予定。
- **シンプルでわかりやすい**防災気象情報の再構築に向け、防災気象情報全体の体系整理や個々の情報の見直し、受け手側の立場に立った情報への改善などを取りまとめ。

警戒レベル相当情報の体系整理

【現在の防災気象情報の課題】

- 情報名称がバラバラで、どのレベルに相当する情報なのかわかりづらい
- 警戒レベル４相当の情報がないものがある（洪水・大雨浸水）
- 同じ警報が異なる対象災害を兼ねている（大雨警報が土砂災害と浸水害を兼ねるなど）
- 特別警報と警報が同じ警戒レベル４になっている（高潮）
- 高潮注意報がレベル２とレベル３相当に分かれている（高潮）

警戒レベル相当情報	防災気象情報				
	指定河川	洪水害	大雨浸水害	土砂災害	高潮
5 相当	氾濫発生情報	大雨特別警報（浸水害）		大雨特別警報（土砂災害）	高潮氾濫発生情報
4 相当	氾濫危険情報			土砂災害警戒情報	高潮特別警報 高潮警報
3 相当	氾濫警戒情報	洪水警報	**大雨警報（浸水害）**	**大雨警報（土砂災害）**	警報に切り替える可能性が高い 高潮注意報
2	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報		高潮注意報

【新しい防災気象情報】

- 防災気象情報を５段階の警戒レベルにあわせて発表。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、レベル４相当の情報として危険警報を新設。
- 情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表。
- 情報と対応する防災行動との関係が明確に。

警戒レベル相当情報	防災気象情報			
	洪水に関する情報	大雨に関する情報	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報
5 相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
4 相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
3 相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報

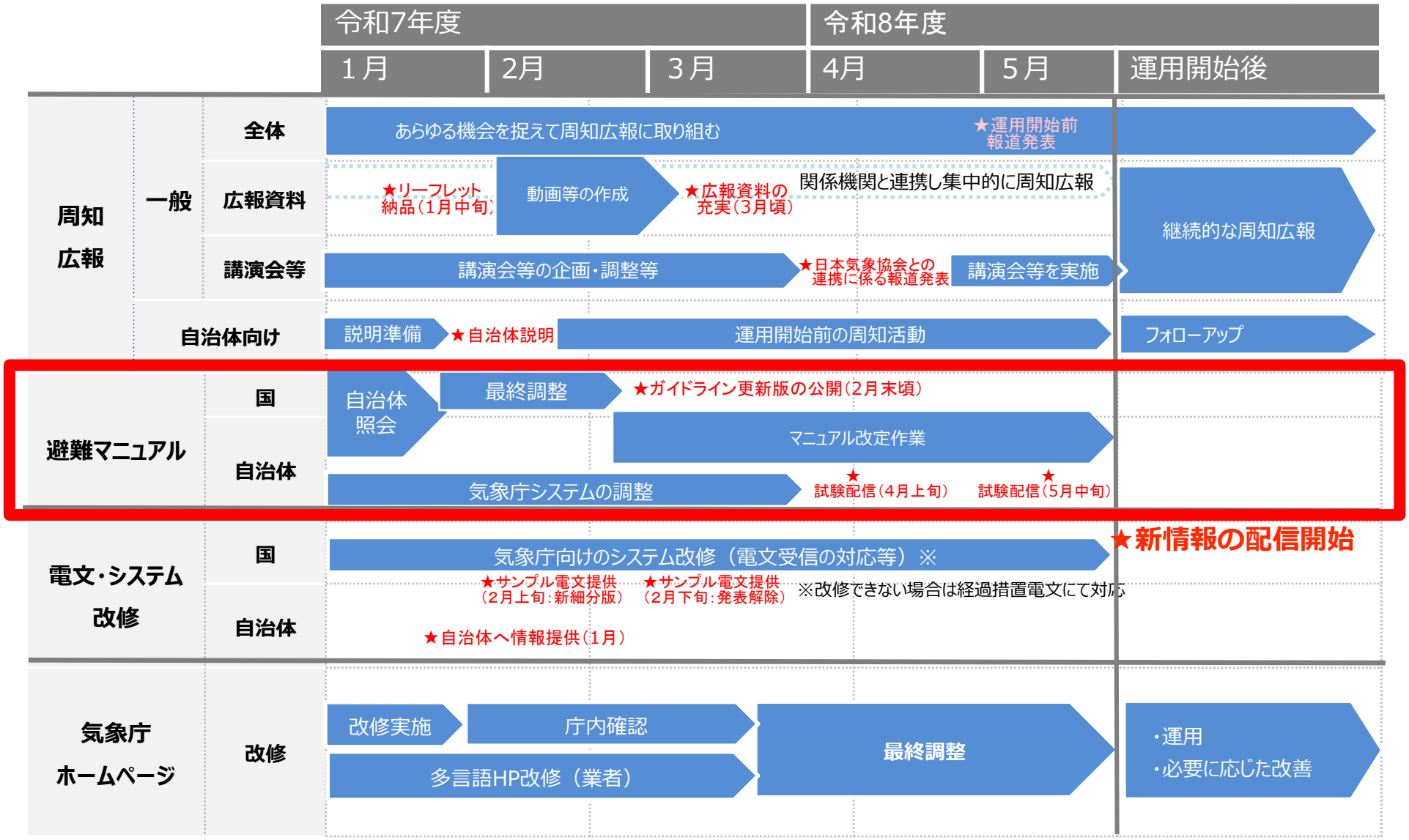
※情報名称の最終決定は、法制度などとの関係も踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

資料－6

新しい防災気象情報の運用開始までの想定スケジュール

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

令和8年1月更新



令和8年度から運用開始！「新しい防災気象情報」について

令和7年12月16日、気象庁から報道発表されました。

最新情報の詳細は、以下のQRコードから特設ページへアクセスしてご確認ください。

令和８年５月下旬(予定)より
気象の警報などが大きく変わります

	河川氾濫	大 雨	土砂災害	高 潮
警戒レベル５相当	レベル５ 氾濫特別警報	レベル５ 大雨特別警報	レベル５ 土砂災害特別警報	レベル５ 高潮特別警報
警戒レベル４相当	レベル４ 氾濫危険警報	レベル４ 大雨危険警報	レベル４ 土砂災害危険警報	レベル４ 高潮危険警報
警戒レベル３相当	レベル３ 氾濫警報	レベル３ 大雨警報	レベル３ 土砂災害警報	レベル３ 高潮警報
警戒レベル２	レベル２ 氾濫注意報	レベル２ 大雨注意報	レベル２ 土砂災害注意報	レベル２ 高潮注意報
警戒レベル１	早期注意情報			

※スマートフォン等のカメラでQRコードを読み取ってください。
気象庁の特設サイトへ移動します。

Ｒ７年度の取組結果（東日本旅客鉄道株式会社秋田支社）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・多機関連携型タイムラインの充実

⇨「福部内川水門稼働及び排水ポンプ車配置・操作訓練」及び「雄物川危機管理演習」に参加し、災害発生時の各機関と連携した防災行動について確認を行った。

Ｒ８年度の取組予定（東日本旅客鉄道株式会社秋田支社）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・多機関連携型タイムラインの充実

⇨引き続き、各種訓練や演習に参加し、災害発生時の各機関と連携した防災行動について確認・検討を行っていく。

Ｒ７年度の取組結果（東北電力）

■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

〇既存ダムを最大限活用した防災体制の強化に関する取組

・既存ダムが柔軟な対応ができるように、予測も含めたより広域的な下流域の情報を共有できる体制を整備

⇨**プッシュ型洪水予報等の情報による事前放流の体制を引き続き整備した。**

Ｒ８年度の取組予定（東北電力）

■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

〇既存ダムを最大限活用した防災体制の強化に関する取組

・既存ダムが柔軟な対応ができるように、予測も含めたより広域的な下流域の情報を共有できる体制を整備

⇨**プッシュ型洪水予報等の情報による事前放流の体制を引き続き整備する。**

Ｒ７年度の取組結果（雄物川水系秋田県）

■ハード対策 （洪水氾濫を未然に防ぐためのハード対策） 河道掘削 雄物川水系 県管理河川【継続実施】

秋田県

河川の流下能力を短期間で向上させ、洪水を安全に流す取組として、河道掘削や伐木を実施する。

■ 淀川 大仙市南外地区 河道掘削



対策後



■ 横手川 美郷町金沢西根地区 河道掘削、伐木



対策後

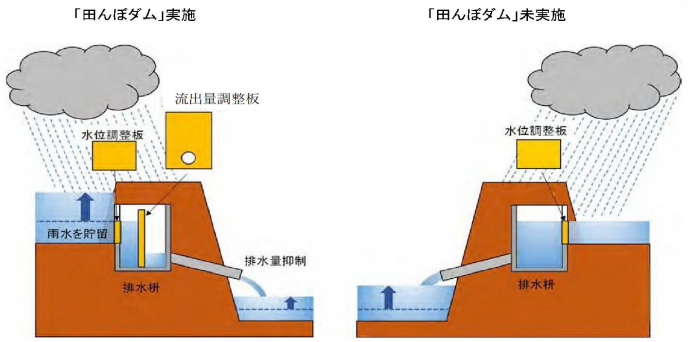


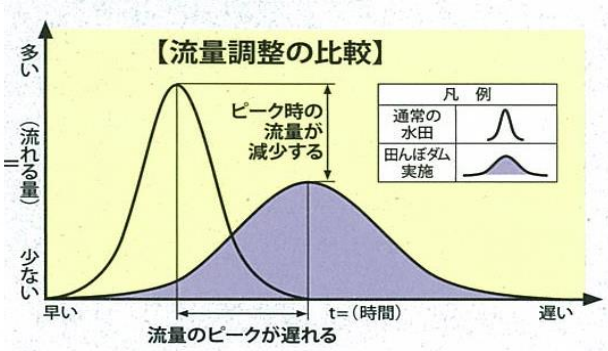
Ｒ７年度の取組（雄物川水系秋田県）

➢ 水田が持つ水を貯める機能を最大限活用　～田んぼダム～

○田んぼダムの仕組みと効果

水田が持つ雨水貯留効果を活用することにより、大雨の際に一時的に田んぼに水を貯め、ゆっくりと排水（流出）させることで河川等のピーク流量を抑制し、下流域の浸水被害を軽減する効果を見込む。







○雄物川水系における
田んぼダム実施状況



内小友西部地区（大仙市）



仁井田東部地区（秋田市）

■取組状況（継続実施）

取組①　普及・啓発活動



説明会の開催



意見交換会



模型を活用した実演



農業者向けの現地見学会

取組②　情報発信による周知活動

県のホームページに掲載し、幅広く周知することで田んぼダムへの理解を高める。
【アドレス】https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/page50468



取組③　田んぼダムの効果

○ほ場整備事業の新規採択地区において、古川および猿田川（秋田市）の流域で田んぼダムに取り組んだ場合の効果シミュレーションを実施。



猿田西地区（秋田市）

取組④　県内の田んぼダム取組面積



令和7年度の市町村別取組面積

管内	市町村名	面積
山本	能代市	322ha
秋田	秋田市	184ha
	大潟村	1,119ha
由利	由利本荘市	21ha
仙北	大仙市	1,947ha
	美郷町	335ha
	仙北市	14ha
雄勝	羽後町	21ha
計		3,963ha

※速報値であり、変更の可能性がある

資料－6

Ｒ８年度の取組計画（雄物川水系秋田県）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

秋田県

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○簡易水位計等の基盤整備【継続実施】

⇨ 危機管理型水位計の運用

・きめ細やかな水位把握が必要な河川へ設置し、洪水時における市町村の避難勧告等の発令や地域住民の適時的確な避難に役立つ水位情報提供の充実を図る。
・データ画像は、秋田県河川砂防情報システムにて公表。

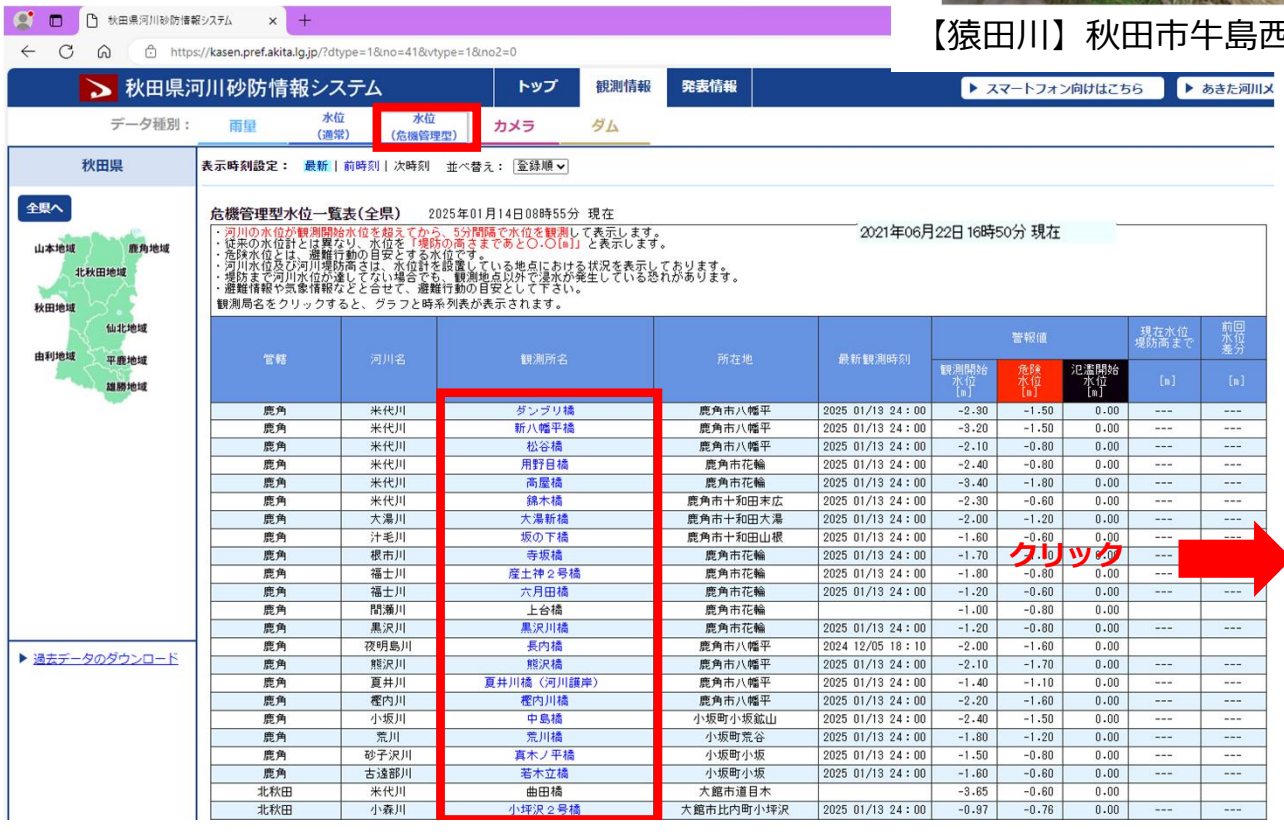
https://kasen.pref.akita.lg.jp/pc/

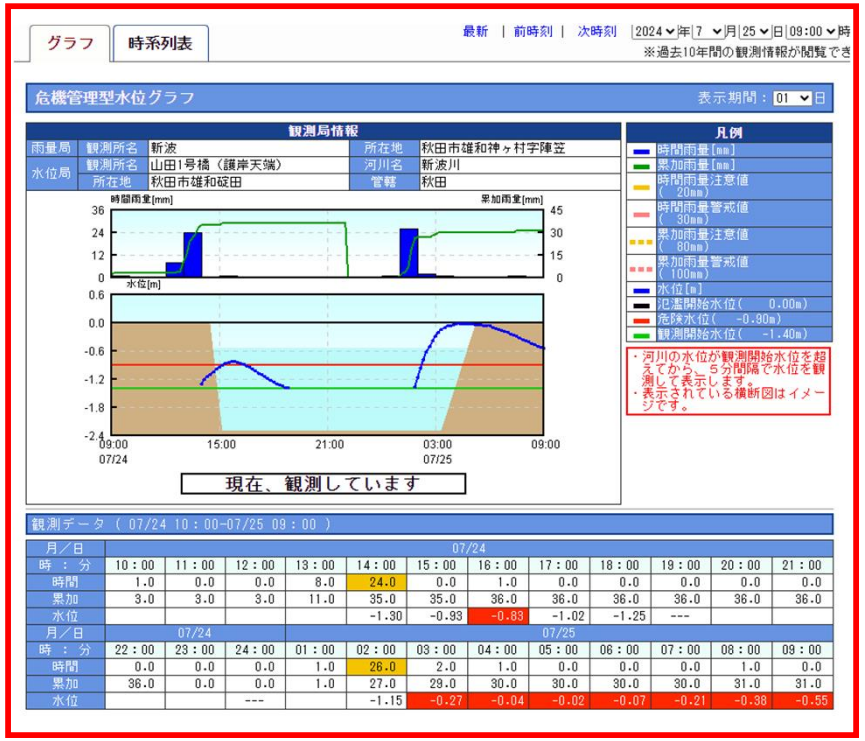


【猿田川】秋田市牛島西　（開中道二号橋）

県管理河川振興局別
危機管理型水位計設置数

振興局	河川数	設置基数
鹿角	15	21
北秋田	32	40
山本	13	14
秋田	27	37
由利	16	19
仙北	22	25
平鹿	8	8
雄勝	22	25
重複河川控除	−5	
計	150	189





クリック

Ｒ８年度の取組計画（雄物川水系秋田県）

秋田県

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

○簡易型カメラ等の基盤整備【継続実施】

⇨ 簡易型河川監視カメラの運用

・リアリティーのある河川の状況を画像で伝えることで、住民の適時的確な避難判断、避難行動を促す。

・カメラの画像は、秋田県河川砂防情報システムにて公表。
http://sabo.pref.akita.jp/kasensabo/index.html


雄物川　湯沢市下院内

県管理河川振興局別
簡易型河川監視カメラ設置数

振興局	河川数	設置基数
鹿角	5	6
北秋田	9	9
山本	9	9
秋田	14	16
由利	7	9
仙北	12	16
平鹿	2	4
雄勝	2	3
重複河川控除	−5	
計	55	72



Ｒ８年度の取組計画（雄物川水系秋田県）

秋田県

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

〇庁舎や排水機場等の耐水性の確認・対策（耐水化・ＢＣＰ等ソフト対策を含む）継続実施

・秋田湾・雄物川流域下水道（臨海処理区）耐水化計画に基づき、過去に浸水被害を受けた流域下水道幹線マンホールポンプ場のレジリエンス向上のため、動力制御盤などの高所移設完了



浸水状況（仁助中継ポンプ場）



浸水状況（平沢中継ポンプ場）

・秋田湾・雄物川流域下水道（大曲処理区）耐水化計画に基づき、終末処理場である大曲処理センターの冠水時においても、汚水処理機能を確保するための工事に着手。止水壁設置完了。今後設備類の耐水対策予定



Ｒ８年度の取組計画（雄物川水系秋田県）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組（継続実施）

・想定最大規模降雨による浸水想定区域図、氾濫シミュレーション、家屋倒壊等氾濫想定区域の公表

⇨ 平成２７年の水防法の改正に伴い、これまでの洪水浸水想定区域を見直し、秋田県美の国ネットにてデータを公表。 https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/10574

令和６年度に大沢川(大仙市)を水位周知河川に指定し、洪水浸水想定図を公表
水位周知河川　全４０河川について、洪水浸水想定想定区域図を公表済み
その他河川についても、令和７年度中に全対象河川の作成・公表を完了する予定



クリック





※洪水予報河川である太平川も加えている。

Ｒ８年度の取組計画（雄物川水系秋田県）

■ソフト対策【動かす】　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

秋田県

○迅速かつ確実な避難に関する取組【継続実施】　（ＩＣＴ等を活用した洪水情報の提供）

⇨　スマートフォンやタブレットでリアルタイムの河川画像にダイレクトにアクセス可能、メールやＬＩＮＥで河川情報を配信

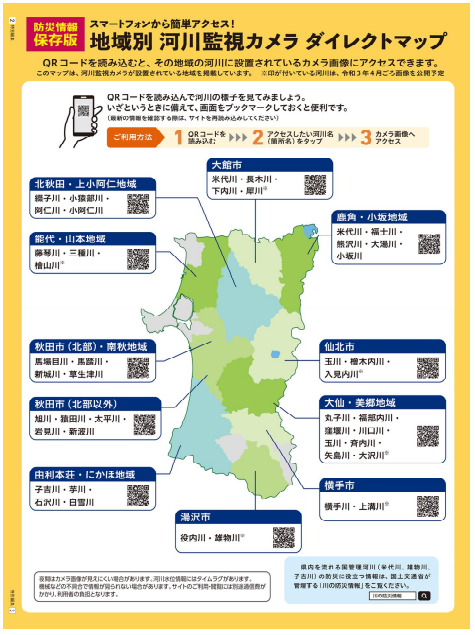
■マップのQRコードをスマートフォンやタブレットで読み取ることでリアルタイムの河川画像などが見れます。

⇒ 県広報紙で全戸配布済

※美の国秋田ネットからも確認、
ダウンロードできます。

https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/48409

※ダイレクトマップは
2021年3･4月号に掲載されています





■令和３年４月「秋田県河川砂防情報システムＨＰ」をスマートフォン対応へ更新しました。

https://kasen.pref.akita.lg.jp/sp/



更新





■令和５年３月より 河川水位 や 降雨量 の メール配信サービス「あきた河川メール」を行っています。

■さらに令和6年5月より、「秋田県公式LINE」との連携も開始しています。（公式LINEについては次項を参照）

※登録は下記ＵＲＬより
https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/69992

※パンフレットに記載している
ＱＲコードからも登録できます。

あきた河川メール パンフレット



Ｒ８年度の取組計画（雄物川水系秋田県）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○迅速かつ確実な避難に関する取組【継続実施】　（ＩＣＴ等を活用した洪水情報の提供）

⇨　スマートフォンを活用した、視覚障がい者のための情報環境改善と防災・河川情報のリアルタイム配信

■「耳で聴くハザードマップ」（Uni-Voice Blindアプリ）

携帯電話のGPS機能を利用し、気象情報、標高、洪水リスク、避難場所までのナビゲートなどを音声読み上げアプリ（ユニボイス　ブラインド）を活用して聴くことができます。

※秋田県防災ポータルサイトからも確認、ダウンロードできます。
https://www.bousai-akita.jp/pages/?article_id=646



① トップ　スキャン画面　② 「現在地の情報」画面　③ 「ハザードマップ」画面　④ 「避難場所一覧」画面

■秋田県公式LINE（令和６年５月運用開始）

県政やイベント情報のほか、避難情報や河川の水位情報などの防災情報が、リアルタイムで配信されます。

※配信を希望する情報や地域は選択することができます。



QRコードはこちら

その他、状況に応じて県公式のSNS（Fecebook、X)による配信も行っています。

資料－6

R８年度の取組計画（雄物川水系秋田県）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

気象台・県・市町村

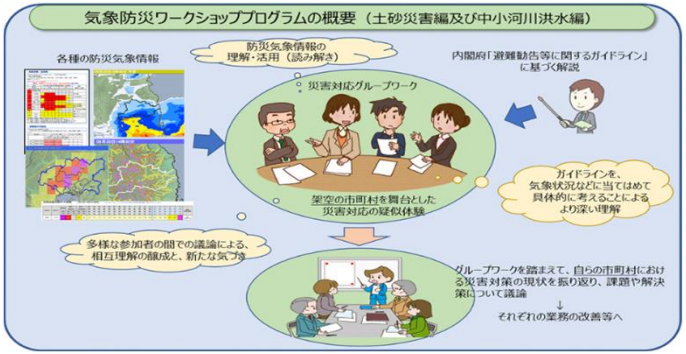
■平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組（継続実施）

○秋田地方気象台と連携した気象防災ワークショップの開催（県総合防災課）

○　洪水災害や土砂災害が発生するおそれのある状況下で、気象台が発表する様々な情報を活用し、地方公共団体での防災対応を疑似体験していただくことで、各種の防災気象情報を理解し有効活用するとともに、体制の強化や避難指示発令のタイミングを検討することで判断のポイントを学びます。
　今後も県内市町村の防災担当者に広く参加していただき、防災対応力の向上を目指します。

○　地方公共団体等の防災対策協力・支援として引き続き気象防災ワークショップ実施し、現場担当者の防災対応力の向上を目指します。

気象防災ワークショップ（土砂災害）



地域防災力を高めるために

市町村職員として、気象庁などから提供される気象情報等を適切に使い、的確なタイミングで市の体制強化や避難の判断・伝達を実施することで、住民の命を災害から守る

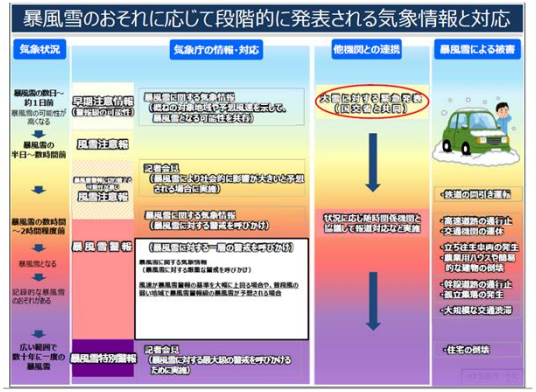
気象庁等	市町村	住民等
警報等	避難情報等	避　難
・情報伝達	・情報収集・伝達 ・防災体制の整備 ・避難の判断	・情報収集 ・避難行動

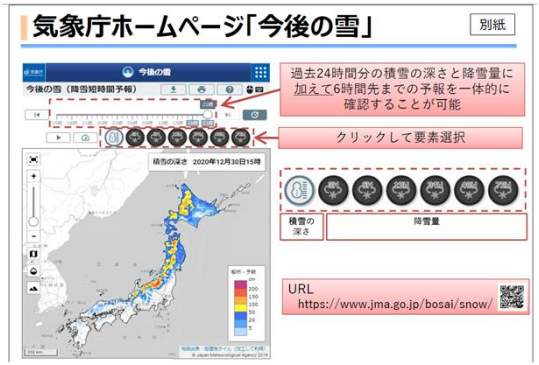
本ワークでの経験や気づきを
今後の業務に活かしましょう！



ワークショップの様子

大雪・暴風雪のメカニズムと防災気象情報の利活用





資料－6

Ｒ８年度の取組計画（雄物川水系秋田県）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

県・市町村

■平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組（継続実施）

○秋田県防災アドバイザー派遣事業による防災力・知識の向上（県総合防災課）

地域全体の防災意識向上や地域の実情に応じた自主防災組織の結成促進、活動活性化を支援することを目的に､秋田県防災士会と連携し防災士を「防災アドバイザー」として派遣し、きめ細かなアドバイスを行うことで、地域防災力の向上を図っています。

【防災アドバイザーの業務】
- ○　自主防災組織の運営・活動支援
- ○　避難誘導・救助訓練、要援護者への対応要領を通じての災害対応力の向上
- ○　ＤＩＧ（災害図上訓練）、ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）を通じて防災知識の普及・啓発を図る
- ○ハザードマップの周知、「マイ・タイムライン」の普及啓発
- ○地区防災計画の策定支援



防災士による講演状況

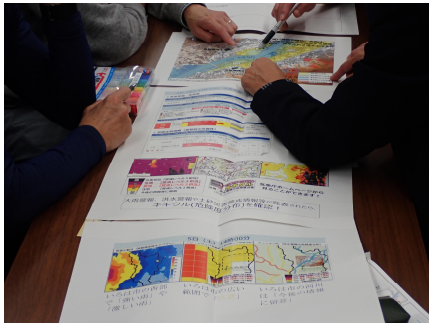


防災備蓄食料品の活用

○自主防災組織育成指導者研修会（県総合防災課・市町村）

災害発生時の自主防災体制の確立を目的に、自主防災組織のリーダーや自治会長、市町村防災担当職員を対象とした防災教育を実施しています。





秋田地方気象台によるワークショップ



県河川砂防課による説明の様子

R８年度の取組予定（雄物川水系秋田県）

■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

秋田県・市町村

■より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組【継続実施】

・重要水防箇所の合同巡視　⇨　重要水防箇所や水防資機材の共同確認

洪水時に危険が予想され、重点的な巡視点検が必要な箇所を関係機関と実施。



横手川（横手市）



皆瀬川（湯沢市）



狙半内川（横手市）



羽後大戸川（羽後町）

R８年度の取組予定（雄物川水系秋田県）

■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

秋田県・市町村

■より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組【継続実施】

・水防資機材の保有状況の確認　⇨ 水防資機材の共同確認

事前に水防資機材の点検・準備を整え、直ちに水防活動を実施できる体制を確保。



水防倉庫：平鹿建設部



水防倉庫：雄勝建設部

Ｒ８年度の取組予定（雄物川水系秋田県）

■ソフト対策【戻す】 ③日常生活及び社会経済活動の一刻も早い回復を可能とする排水活動

国・秋田県・市町村

○排水活動及び訓練、施設運用に関する取組【継続実施】

・関係機関と連携したリアリティのある水防・排水訓練の実施

⇨ 梅雨前線による集中豪雨や秋の台風シーズンを控え、排水ポンプ車の操作や機材の設置に習熟するための訓練を実施。









国交省・秋田県・大仙市合同訓練状況写真：R7丸子川・福部内川（大仙市大曲）

資料－6

令和７年度の取組結果（東北地方整備局）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ハード対策

■洪水氾濫を未然に防ぐ対策
■避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

○堤防等整備 ⇨ 秋田市川崎地区【継続】、横手市館合・鳥屋場地区【継続】

○堰改築　⇨　湯沢市山田地区【継続】

○護岸等整備（災害復旧）

⇨　大仙市（大曲西根）地区、横手市大雄地区、横手市雄物川地区【完了】

○河道掘削　⇨　秋田市秋田地区、大仙地区【継続】

○ダム建設の推進　⇨　成瀬ダム建設事業【継続】

・令和７年度本体工事進捗：約85%（事業費ベース）

・管理庁舎概成：令和7年9月

○簡易水位計等の基盤整備 ⇨ 簡易型河川監視カメラ（全41基整備済）【継続】

○河川防災ステーションの整備 ⇨ 秋田地区河川防災ステーション【継続】



岩瀬湯野沢地区堤防整備状況



山田地区堰改築進捗状況
（令和7年11月12日撮影）



戸草沢地区　堤防･排水樋門整備状況



成瀬ダム　本体工事進捗状況
（令和7年11月27日撮影）

■ソフト対策【動かす】

①逃げ遅れゼロに向けた
迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・タイムラインを活用したロールプレイング等のリアリティのある防災訓練の実施

⇨ 秋田市・大仙市と秋田・湯沢河国がそれぞれ連携し「洪水対応演習」を実施【継続】

⇨ 討論型図上形式によるタイムライン検討会（課題等抽出等）を開催（秋田市）【継続】

⇨ ロールプレイング形式でタイムラインの改善を目指し危機管理演習を開催（秋田市）【継続】

⇨ ロールプレイング形式で玉川ダムの緊急放流を想定した危機管理演習を開催（仙北市）【新規】

・水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施

⇨ 流域市町村全校において、防災教育資料を展開（関係機関共同実施）【継続】

⇨ 自然災害伝承碑のほか、水害に係わる昔話や伝承も含めて防災教育資料を作成【継続】





R7危機管理演習実施状況（左：秋田市、右：秋田河川国道事務所）



R7危機管理演習実施状況
（仙北市）

資料－6

令和７年度の取組結果（東北地方整備局）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の避難行動に着目した各市町のタイムラインの運用

⇨ 過去出水及び危機管理演習結果等を踏まえタイムラインの検証・見直し（関係機関共同実施）【継続】

⇨ 横手市においてマイ・タイムライン講習会を実施

・想定最大規模降雨による浸水想定区域図、氾濫シミュレーション、家屋倒壊等氾濫想定区域の公表

⇨ ハザードマップ作成に必要な電子データを提供支援【継続】

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充（防災メール、防災ラジオ、SNS等）

⇨ プッシュ型メールによる住民への情報提供及び周知広報を実施【継続】

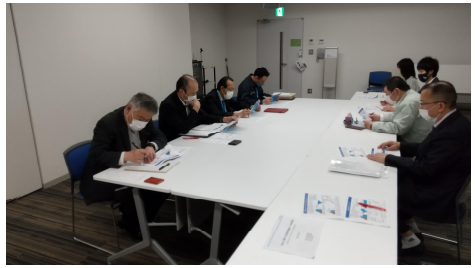
⇨ 基準水位や危険箇所等の設定根拠を対象自治体に説明【継続】

・自然災害の伝承

⇒自然災害を自分事として捉えていただくため「あきた災害の記憶伝承」リーフレット作成配布【継続】



あきた災害伝承リーフレット



危険箇所等の設定根拠を自治体に説明

■ソフト対策【ねばる】 ②氾濫被害の防止や軽減、避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・流域内の関係機関が防災情報を共有できる体制の整備

⇨ 秋田県 情報集約配信システムによる情報共有【継続】

・重要水防箇所の合同巡視、関係機関が連携した水防訓練・水防団同士の連絡体制の再確認の実施

⇨ 関係機関（水防団、各市町、秋田県、東北地方整備局）合同による重要水防箇所点検【継続】

⇨ 流域自治体の水防訓練での排水ポンプ車活用の紹介と合同訓練実施【継続】



R7重要水防箇所合同巡視（大仙市）

○既存ダムを最大限活用した防災体制の強化に関する取組

・既存ダムが柔軟な対応ができるように、予測も含めたより広域的な下流域の情報を共有できる体制を整備。

⇨ダム事前放流実施要領【継続】

⇨玉川ダム・鎧畑ダム連携協定の締結（R3.6.8締結）

洪水時及び平常時におけるより効率的な情報提供や住民周知、治水・利水の一体的かつ総合的なダム運用検討【継続】



玉川ダム・鎧畑ダム
連携協定 締結式

令和７年度の取組結果（東北地方整備局）

■ソフト対策【戻す】

③日常生活および社会経済活動の一刻も早い回復を可能とする排水活動

○排水活動及び訓練、施設運用に関する取組

・関係機関と連携したリアリティのある水防・排水訓練の実施

⇨排水ポンプ車操作訓練の実施【継続】

⇨ 福部内川に秋田県で設置された排水のための堤防乗り越し管の稼働等確認のため、秋田県、大仙市の3機関合同による排水ポンプ車設置訓練を実施【継続】

⇨水防技術の向上及び関係機関と連携した防災体制の強化を図る「雄物川総合水防演習」を実施

・排水施設等の情報共有、浸水区域内の自然勾配を踏まえた排水の検討を行い、大規模水害を想定した氾濫時の緊急排水計画（案）を作成

⇨ 長期にわたり浸水が継続する地域において、地域社会をいち早く復旧させるための排水計画（案）を作成【関係市町へ情報提供済】（今後は必要に応じてリバイス）【継続】



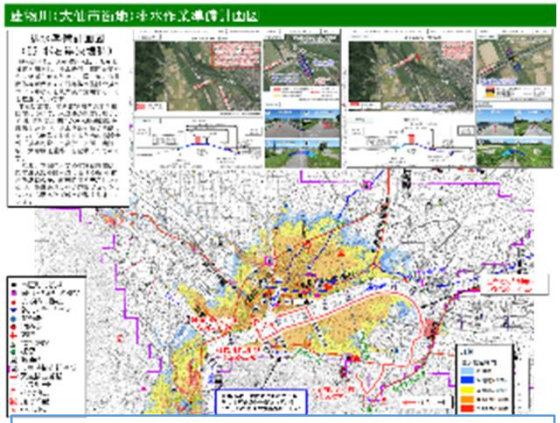
国交省・秋田県・大仙市による排水ポンプ車設置訓練状況



救助・救護訓練



水防工法（シート張り工）



緊急排水計画（案）のイメージ

資料－6

令和８年度の取組予定（東北地方整備局）

雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

■ハード対策

○堤防等整備　⇨　秋田市川崎地区【継続】

○堰改築　⇨　湯沢市山田地区【継続】

○河道掘削　⇨　秋田市秋田地区、大仙市大仙地区【継続】

○ダム建設の推進　⇨　成瀬ダム建設事業【継続】

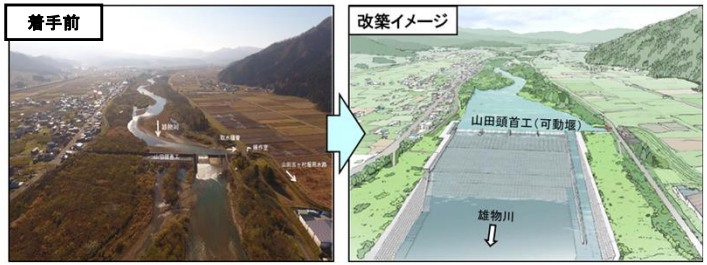
○簡易水位計等の基盤整備

⇨　簡易型河川監視カメラ（全41基整備済）【継続】

⇨　ドローン技術を活用した河川巡視【新規】

○河川防災ステーションの整備

⇨ 秋田地区河川防災ステーション【継続】



湯沢市山田地区に堰改築イメージ



秋田地区河川防災ステーション
整備イメージ



成瀬ダム　完成イメージ

■ソフト対策【動かす】　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組

・タイムラインを活用したロールプレイング等のリアリティのある防災訓練の実施

⇨ 流域自治体と連携し「洪水対応演習」を開催予定【継続】

⇨ ロールプレイング形式でダムからの放流に伴う下流沿川住民の確実な避難行動等を目的に、住民参加型の危機管理演習を開催予定（仙北市）【継続】

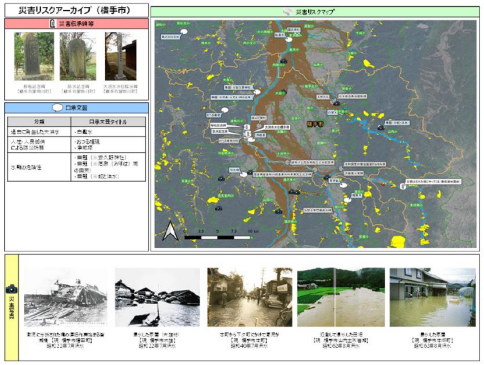
・水害リスクを共有するための教育機関等と連携した防災教育の実施

⇨ 流域市町村全校において、防災教育資料を展開（関係機関共同実施）【継続】

⇨ 自然災害伝承碑のほか、水害に係わる昔話や伝承も含めて防災教育資料の展開【継続】

・適切な避難行動のための地域住民への啓発の充実【新規】

⇨ 防災展の実施、防災講話等啓発活動の実施



自然災害伝承碑等の防災教育資料の展開

令和８年度の取組予定（東北地方整備局）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○発災時の迅速かつ確実な避難に関する取組

・住民の避難行動に着目した各市町のタイムラインの運用

⇨ 過去出水及び危機管理演習結果等を踏まえタイムラインの検証・見直し（関係機関共同実施）【継続】

・想定最大規模降雨による浸水想定区域図、氾濫シミュレーション、家屋倒壊等氾濫想定区域の公表

⇨ ハザードマップ作成に必要な電子データを提供支援【継続】

・住民の主体的避難を促す情報伝達手段の拡充（メール、ラジオ、WEB・アプリ、SNS等）

⇨ 基準水位や危険箇所等の設定根拠を対象自治体に説明【継続】

⇨ 水位周知河川の洪水予報河川化【新規】

・避難所機能の早期立ち上げ・充実化【新規】

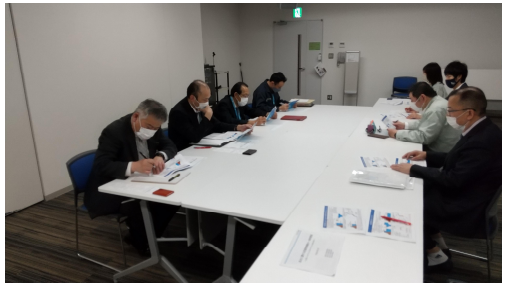
⇨ 避難所運営体制と運営施設の充実

・自然災害の伝承

⇒自然災害を自分事として捉えていただくため「あきた災害の記憶伝承」リーフレット作成配布【継続】



あきた災害伝承リーフレット



危険箇所等の設定根拠を自治体に説明

■ソフト対策【ねばる】 ②氾濫被害の防止や軽減、避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組

・流域内の関係機関が防災情報を共有できる体制の整備

⇨ 秋田県 情報集約配信システムによる情報共有【継続】

・重要水防箇所の合同巡視、関係機関が連携した水防訓練・水防団同士の連絡体制の再確認の実施

⇨ 関係機関（水防団、各市町、秋田県、東北地方整備局）合同による重要水防箇所点検【継続】

⇨ 流域自治体の水防訓練での排水ポンプ車活用の紹介と合同訓練実施【継続】



R7重要水防箇所合同巡視（横手市）

○既存ダムを最大限活用した防災体制の強化に関する取組

・既存ダムが柔軟な対応ができるように、予測も含めたより広域的な下流域の情報を共有できる体制を整備。

⇨ダム事前放流実施要領【継続】

⇨玉川ダム・鎧畑ダム連携協定の締結（R3.6.8締結）

洪水時及び平常時におけるより効率的な情報提供や住民周知、治水・利水の一体的かつ総合的なダム運用検討【継続】



玉川ダム・鎧畑ダム連携協定 締結式

令和８年度の取組予定（東北地方整備局）

■ソフト対策【戻す】

③日常生活および社会経済活動の一刻も早い回復を可能とする排水活動

<u>○排水活動及び訓練、施設運用に関する取組</u>

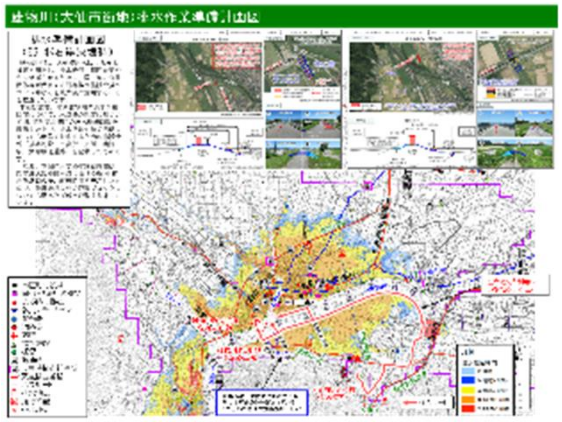
・関係機関と連携したリアリティのある水防・排水訓練の実施

⇨排水ポンプ車操作訓練の実施【継続】

⇨ 福部内川に秋田県で設置された排水のための堤防乗り越し管の稼働等確認のため、秋田県、大仙市の3機関合同による排水ポンプ車設置訓練を実施【継続】

・排水施設等の情報共有、浸水区域内の自然勾配を踏まえた排水の検討を行い、大規模水害を想定した氾濫時の緊急排水計画（案）を作成

⇨ 長期にわたり浸水が継続する地域において、地域社会をいち早く復旧させるための排水計画（案）を作成【関係市町へ情報提供済】（今後は必要に応じてリバイス）【継続】



緊急排水計画（案）のイメージ





国交省・秋田県・大仙市による排水ポンプ車設置訓練状況

資料－6

R８年度の取組計画（馬場目川水系秋田県）

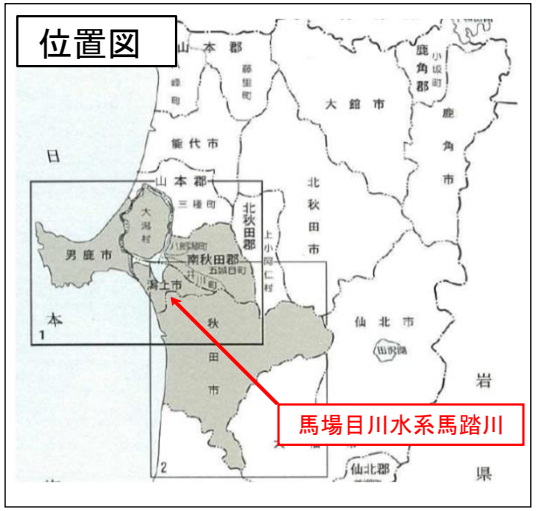
雄物川減災対策協議会
～大洪水から70年・30年～

秋田県

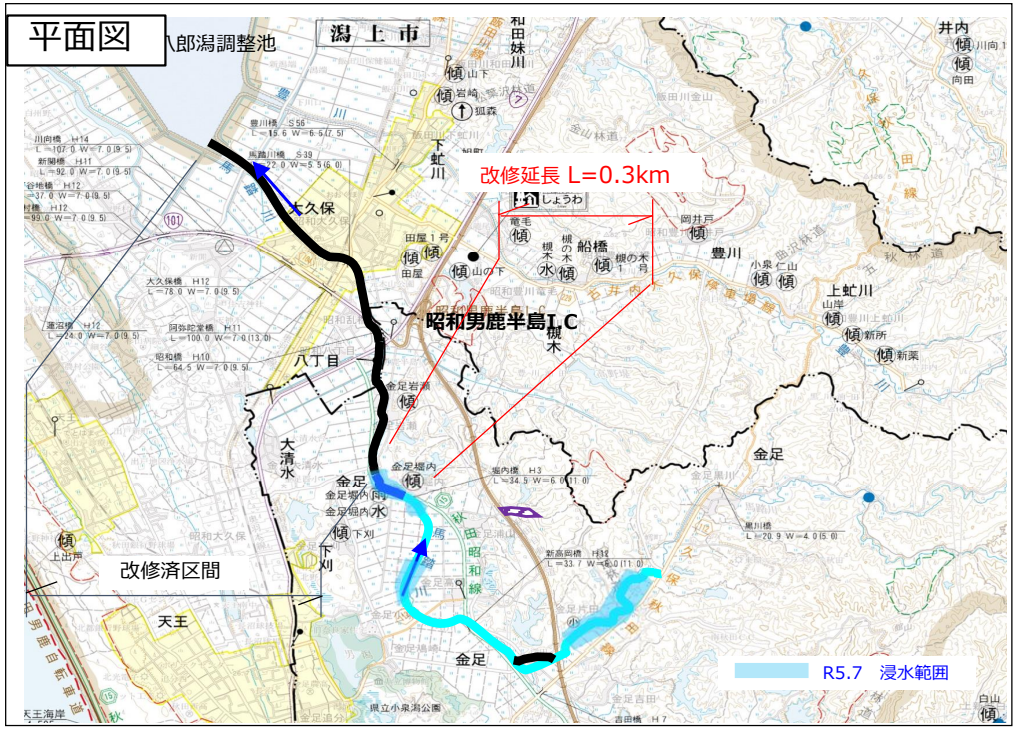
■ハード対策 （洪水氾濫を未然に防ぐためのハード対策）

馬踏川中流部（秋田市金足堀内地区）では、河川が蛇行し狭隘で流下能力が低い区間があり、豪雨の際には床上浸水被害等が発生していることから、河道掘削や堤防整備を計画的に実施し、治水安全度の向上を図る。

位置図



平面図

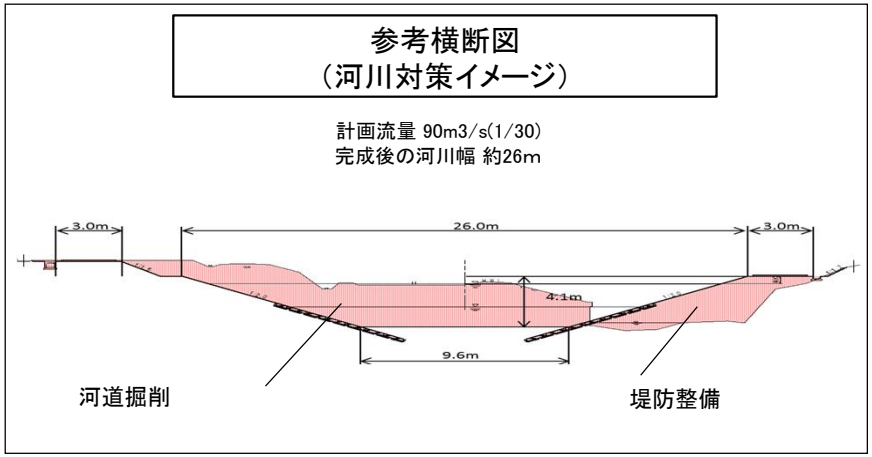


過去の被害状況





参考横断図（河川対策イメージ）







※今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

資料－6

R８年度の取組計画（馬場目川水系秋田県）

秋田県

■ハード対策 （洪水氾濫を未然に防ぐためのハード対策）

三種川中流部（山本中学校）から上流部（長面地区）では、河川が蛇行し狭隘で流下能力が低い区間があり、豪雨の際には床上浸水被害等が発生していることから、河道掘削や堤防整備を計画的に実施し、治水安全度の向上を図る。

位置図



平面図



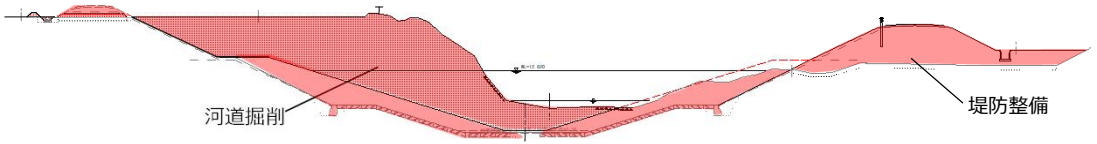
過去の被害状況





参考横断図（河川対策イメージ）

完成後の河川幅 約36m　　計画流量 280m3/s(1/10)







※今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

Ｒ７年度の取組結果（馬場目川水系秋田県）

■ハード対策 （洪水氾濫を未然に防ぐためのハード対策） 河道掘削 馬場目川水系 県管理河川【継続実施】

秋田県

河川の流下能力を短期間で向上させ、洪水を安全に流す取組として、河道掘削や伐木を実施する。

■ 馬場目川 磯ノ目地区 河道掘削、伐木



対策後



■ 馬場目川 上町地区 河道掘削、伐木



対策後



Ｒ７年度の取組（馬場目川水系秋田県）

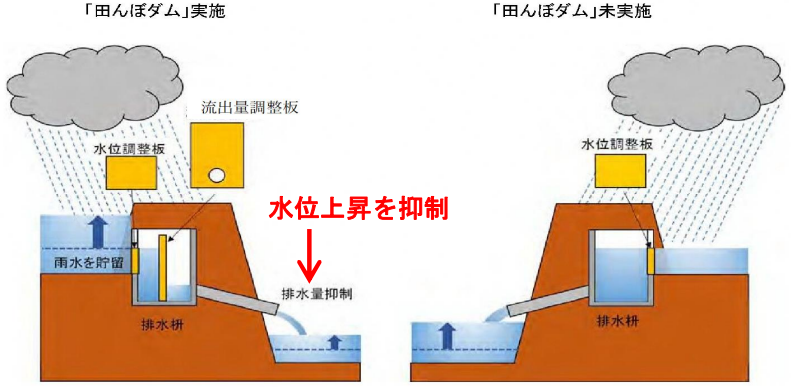
■田んぼダムの推進について（県全域での取り組み）【継続実施】

国・県・市町村

【田んぼダムの取り組みに向けた普及・啓発活動】
　田んぼダムに取り組むには、関係農業者や便益を受ける地域住民が、その効果や恩恵を理解するとともに、市町村や農業団体が主体となって流域全体で合意形成を図ることが重要であり、それを促すための普及啓発を行っています。

○田んぼダムの仕組みと効果

　水田が持つ雨水貯留効果を活用することにより、大雨の際に一時的に田んぼに水を貯め、ゆっくりと排水（流出）させることで河川等のピーク流量を抑制し、下流域の浸水被害を軽減する効果を見込む。



田んぼダムの一例





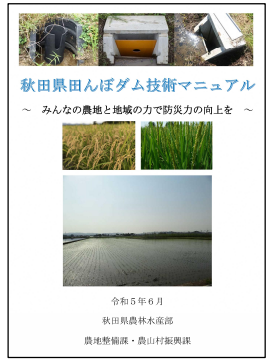
○普及・啓発活動（県内での実施例）











【左】県が発行している「田んぼダム通信」
【右】秋田県 田んぼダム技術マニュアル

R８年度の取組計画（馬場目川水系秋田県）

秋田県

■ハード対策　（避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備）

洪水時における避難情報の発令や地域住民の的確な避難を促すよう、従来型水位計に加え、危機管理型水位計及び河川監視カメラを設置し、リアルタイムの水位、河川状況画像、雨量情報をインターネットに公表、情報提供を図る。【継続実施】

・データ画像は、秋田県河川砂防情報システムにて公表。
https://kasen.pref.akita.lg.jp

県管理河川振興局別
危機管理型水位計設置数

振興局	河川数	設置基数
鹿角	15	21
北秋田	32	40
山本	13	14
秋田	27	37
由利	16	19
仙北	22	25
平鹿	8	8
雄勝	22	25
重複河川控除	−5	
計	150	189

県管理河川振興局別
簡易型河川監視カメラ設置数

振興局	河川数	設置基数
鹿角	5	6
北秋田	9	9
山本	9	9
秋田	14	16
由利	7	9
仙北	12	16
平鹿	2	4
雄勝	2	3
重複河川控除	−5	
計	55	72

河川監視カメラ設置状況
（馬場目川　五城目町馬場目中屋敷地区　中屋敷橋）



秋田県河川砂防情報システムによるリアルタイム情報の提供



Ｒ８年度の取組計画（馬場目川水系秋田県）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

○迅速かつ確実な避難に関する取組【継続実施】　（ＩＣＴ等を活用した洪水情報の提供）

⇨　スマートフォンを活用した、視覚障がい者のための情報環境改善と防災・河川情報のリアルタイム配信

■「耳で聴くハザードマップ」（Uni-Voice Blindアプリ）

携帯電話のGPS機能を利用し、気象情報、標高、洪水リスク、避難場所までのナビゲートなどを音声読み上げアプリ（ユニボイス　ブラインド）を活用して聴くことができます。

※秋田県防災ポータルサイトからも確認、ダウンロードできます。
https://www.bousai-akita.jp/pages/?article_id=646



① トップ　スキャン画面　② 「現在地の情報」画面　③ 「ハザードマップ」画面　④ 「避難場所一覧」画面

■秋田県公式LINE（令和６年５月運用開始）

県政やイベント情報のほか、避難情報や河川の水位情報などの防災情報が、リアルタイムで配信されます。

※配信を希望する情報や地域は選択することができます。



QRコードはこちら

その他、状況に応じて県公式のSNS（Facebook、X)による配信も行っています。

Ｒ８年度の取組計画（馬場目川水系秋田県）

■ソフト対策【動かす】　①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

秋田県

○迅速かつ確実な避難に関する取組【継続実施】　（ＩＣＴ等を活用した洪水情報の提供）

⇨　スマートフォンやタブレットでリアルタイムの河川画像にダイレクトにアクセス可能、メールやＬＩＮＥで河川情報を配信

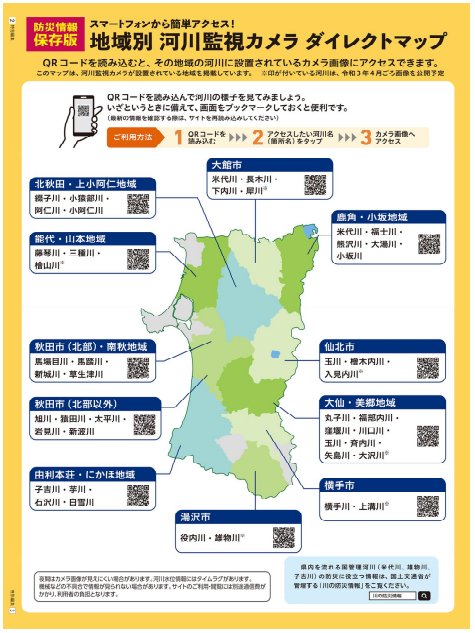
■マップのQRコードをスマートフォンやタブレットで読み取ることでリアルタイムの河川画像などが見れます。

⇒ 県広報紙で全戸配布済

※美の国秋田ネットからも確認、
ダウンロードできます。

https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/48409

※ダイレクトマップは
2021年3･4月号に掲載されています





■令和３年４月「秋田県河川砂防情報システムＨＰ」をスマートフォン対応へ更新しました。

https://kasen.pref.akita.lg.jp/sp/



更新





■令和５年３月より 河川水位 や 降雨量 の メール配信サービス「あきた河川メール」を行っています。

■さらに令和6年5月からは、「秋田県公式LINE」との連携も開始しています。

※登録は下記ＵＲＬより
https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/69992

※パンフレットに記載している
ＱＲコードからも登録できます。

あきた河川
メ　ー　ル
パンフレット



Ｒ８年度の取組予定（馬場目川水系秋田県）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

県・市町村

■要配慮者利用施設の管理者への説明会の実施【継続実施】

・要配慮者利用施設における避難計画の作成及び避難訓練の実施

⇨　講習会プロジェクトの取組　※市町村地域防災計画にその名称及び所在地が定められた施設が対象

洪水・土砂災害からの「逃げ遅れゼロ」を目指し、平成30年から講習会プロジェクトを継続して実施

今後は市町村からの要望に応じて講習会を実施

■各市町村の取り組み事例





※写真は過年度実施状況

Ｒ８年度の取組計画（馬場目川水系秋田県）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

気象台・県・市町村

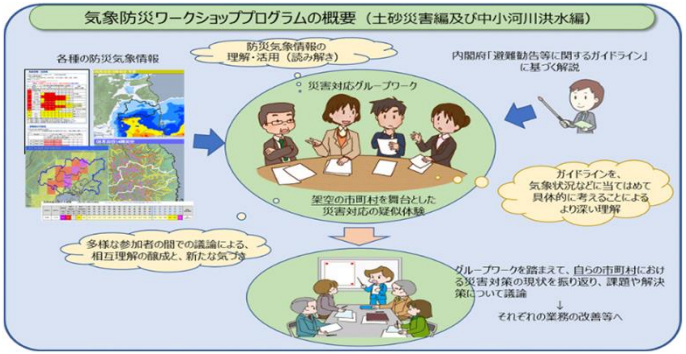
■平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組（継続実施）

○秋田地方気象台と連携した気象防災ワークショップの開催（県総合防災課）

○　洪水災害や土砂災害が発生するおそれのある状況下で、気象台が発表する様々な情報を活用し、地方公共団体での防災対応を疑似体験していただくことで、各種の防災気象情報を理解し有効活用するとともに、体制の強化や避難指示発令のタイミングを検討することで判断のポイントを学びます。
　今後も県内市町村の防災担当者に広く参加していただき、防災対応力の向上を目指します。

○　地方公共団体等の防災対策協力・支援として引き続き気象防災ワークショップ実施し、現場担当者の防災対応力の向上を目指します。

気象防災ワークショップ（土砂災害）

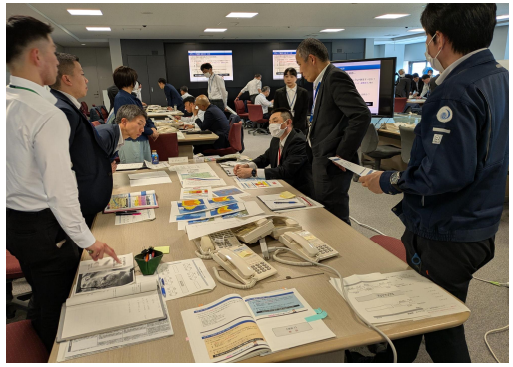


地域防災力を高めるために

市町村職員として、気象庁などから提供される気象情報等を適切に使い、的確なタイミングで市の体制強化や避難の判断・伝達を実施することで、住民の命を災害から守る

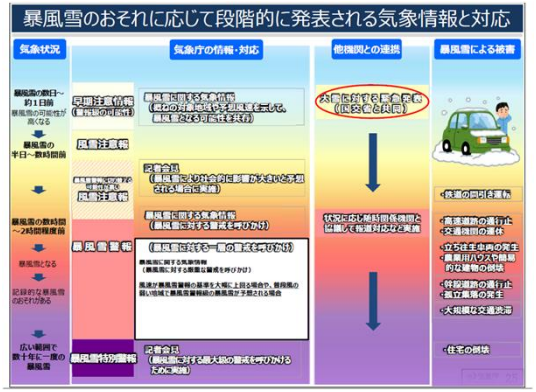
気象庁等	市町村	住民等
警報等	避難情報等	避　難
・情報伝達	・情報収集・伝達 ・防災体制の整備 ・避難の判断	・情報収集 ・避難行動

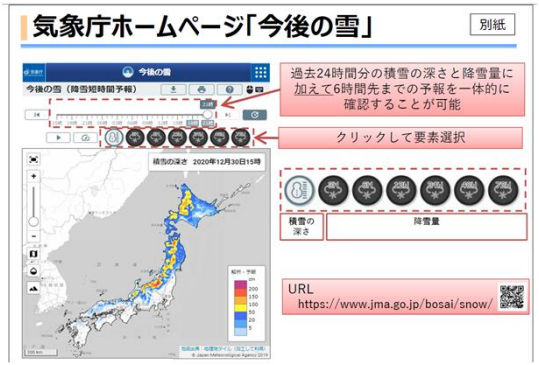
本ワークでの経験や気づきを
今後の業務に活かしましょう！



ワークショップの様子

大雪・暴風雪のメカニズムと防災気象情報の利活用





Ｒ８年度の取組計画（馬場目川水系秋田県）

■ソフト対策【動かす】

①逃げ遅れゼロに向けた
迅速な情報発信と避難の誘導

県・市町村

■平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組（継続実施）

○秋田県防災アドバイザー派遣事業による防災力・知識の向上（県総合防災課）

地域全体の防災意識向上や地域の実情に応じた自主防災組織の結成促進、活動活性化を支援することを目的に､秋田県防災士会と連携し防災士を「防災アドバイザー」として派遣し、きめ細かなアドバイスを行うことで、地域防災力の向上を図っています。

【防災アドバイザーの業務】
- ○　自主防災組織の運営・活動支援
- ○　避難誘導・救助訓練、要援護者への対応要領を通じての災害対応力の向上
- ○　ＤＩＧ（災害図上訓練）、ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）を通じて防災知識の普及・啓発を図る
- ○ハザードマップの周知、「マイ・タイムライン」の普及啓発等
- ○地区防災計画の策定支援



防災士による講演状況

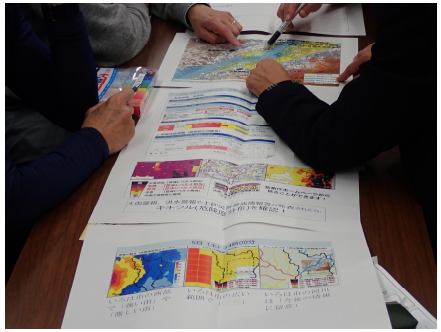


防災備蓄食料品の活用

○自主防災組織育成指導者研修会（県総合防災課・市町村）

災害発生時の自主防災体制の確立を目的に、自主防災組織のリーダーや自治会長、市町村防災担当職員を対象とした防災教育を実施しています。





秋田地方気象台によるワークショップ



県河川砂防課による説明の様子

Ｒ８年度の取組予定（馬場目川水系市町村）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

市町村

■平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組【継続実施】

・水害リスクの高い区間における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施

⇨実践的な防災訓練を実施し、災害に対する避難体制の強化と防災意識の向上を図る。

■各市町村の取組事例


秋田市　総合防災訓練状況


潟上市　総合防災訓練状況


三種町　総合防災訓練状況


五城目町　総合防災訓練状況


井川町　総合防災訓練状況



八郎潟町　防災訓練状況

R8年度の取組予定（馬場目川水系市町村）

■ソフト対策【動かす】 ①逃げ遅れゼロに向けた迅速な情報発信と避難の誘導

男鹿市

■平時からのリスク情報の周知と防災教育・訓練等に関する取組【継続実施】

・水害リスクの高い区間における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施

⇨実践的な防災訓練を実施し、災害に対する避難体制の強化と防災意識の向上を図る。

■各市町村の取組事例


男鹿市　総合防災訓練状況


男鹿市　総合防災訓練状況


孤立集落状況把握・支援訓練状況


孤立集落状況把握・支援訓練状況



日赤第１ブロック支部合同災害救護訓練状況


日赤第１ブロック支部合同災害救護訓練状況

Ｒ８年度の取組予定（馬場目川水系秋田県）

■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

秋田県・市町村

■より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組【継続実施】

・重要水防箇所の合同巡視　⇨　重要水防箇所の共同確認等（河川の点検に加え、内水対策が必要な箇所の対応など）

洪水時に危険が予想され、重点的な巡視点検が必要な箇所を関係機関と実施。





三種川（三種町）
重要水防箇所点検状況





長面地区（三種町）
内水対策検討

※写真は過年度実施状況

Ｒ８年度の取組予定（馬場目川水系秋田県）

■ソフト対策【ねばる】

②氾濫被害の防止や軽減、
避難時間の確保のための情報共有と水防活動の強化

秋田県・市町村

■より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化に関する取組【継続実施】

・水防資機材の保有状況の確認　⇨ 水防資機材の共同確認

事前に水防資機材の点検・準備を整え、直ちに水防活動を実施できる体制を確保。



水防倉庫：山本建設部



水防倉庫：秋田建設部

Ｒ８年度の取組予定（馬場目川水系秋田県）

国・県・市町村

■ソフト対策【戻す】 ③日常生活及び社会経済活動の一刻も早い回復を可能とする排水活動

○排水活動及び訓練、施設運用に関する取組【継続実施】

・関係機関と連携したリアリティのある水防・排水訓練の実施

⇨　梅雨前線による集中豪雨や秋の台風シーズンを控え、排水ポンプ車の操作や機材の設置に習熟するための訓練を実施。



県北配備【排水ポンプ車】



訓練状況写真：R6山本、北秋田、鹿角地域振興局合同訓練（北秋田管内）